

組織目標評価報告書(平成30年度)

部局名:

グローバル・パートナーズ

部局長名:

村田 芳行

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
④センター業務	
④-1 目標	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<ul style="list-style-type: none"> ・本学学生の異文化体験率及び派遣留学生数を増加させるため、全学の新生を対象として留学ガイダンスを実施する。 ・全学を対象とした海外留学に関する危機管理セミナーを実施する。 ・「派遣留学支援・海外渡航システム」を運用し、学内の危機管理体制の強化を図る。 ・外国人留学生と日本人学生混住の国際シェアハウス及び留学生寮を円滑に運用する。 ・留学生支援ボランティア及び留学生協会等の団体を支援することにより、本学学生の多文化理解や留学生との活発な交流を図るための取組及びイベントを実施する。 ・国立六大学国際連携機構(SixERS)、ASEAN大学ネットワーク(AUN)及び中国卓越大学連盟(Excellence 9)の協働により、交換留学プログラムを計画・実施する。 ・アジア太平洋交流機構(UMAP)プログラムへの参加・実施の検討を進める。 ・エラスムスプラスプログラムを通じた欧州の大学との学生及び研究者の交流を支援する。 ・キャンパスアジア事業を推進する。 ・O-NECUS(岡山大学・中国東北部大学院留学交流)プログラムを推進する。 ・ミャンマー留学コーディネーター配置事業及びミャンマー人材育成支援産学官連携ぶらっとフォームにおける連携事業より、日本留学者の増加を図るとともに、人材育成支援を推進する。 ・既存の交流協定締結校との交流実績の評価及び新規交流校の開拓により、学生短期交流プログラムを拡充する。 ・GPが主体となる超短期学生受入プログラム(サマースクール・スプリングスクール)を企画・実施する。 ・優秀な外国人留学生の受入れ拡大のため、部局と協力して受入プログラムを拡充する。 ・プレマスターコース(大学院予備教育特別コース)の充実を図り、円滑に運営する。 ・岡山大学ライデン大学日本語日本文化研修プログラムコース(本年度初回)を円滑に実施する。 ・国際同窓会支部及び国際連携所との連携強化を図る。 ・国立六大学国際連携機構によるアライアンスを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学学生の異文化体験率及び派遣留学生数を増加させるため、昨年度に引き続き全学の新生を対象とした留学ガイダンスを必修科目として実施した。 ・昨年度に引き続き、全学を対象とした海外留学に関する危機管理セミナーを2回実施した。 ・「派遣留学支援・海外渡航システム」を運用し、安否確認時の部局間の連絡・連携がスムーズに行えるよう、学内の危機管理体制を強化した。 ・留学生宿舎のRA・フロアリーダーによる月1回合同ミーティングを実施することで、問題意識の共有及び入居者間の多文化理解の促進を図るなど、外国人留学生と日本人学生混住の国際シェアハウス及び留学生寮の円滑に運用した。 ・留学生支援ボランティア及び留学生協会等の団体を、会場の貸出やイベント開催の掲示等によって支援することにより、本学学生の多文化理解や留学生との活発な交流を図るための取組及びイベントを積極的に実施した。 ・中国卓越大学連盟との交流促進に係る「淡路島宣言」の締結などにより関係性の強化を図りつつ、国立六大学国際連携機構(SixERS)、ASEAN大学ネットワーク(AUN)及び中国卓越大学連盟(Excellence 9)の協働による交換留学プログラムの実施に向け協議を行っている。 ・アジア太平洋交流機構(UMAP)プログラムに関する情報収集を継続的に行い、参加・実施の検討を進めている。 ・エラスムスプラスプログラムを通じた欧州の大学との学生及び研究者の交流を支援している。 ・社会文化科学研究科におけるダブル・ディグリー制度の開始に向けた経費及び奨学金の確保を行うなど、キャンパスアジア事業を推進している。 ・O-NECUS(岡山大学・中国東北部大学院留学交流)プログラムにおいては、一部の協定付属文書の見直しを行い、学生交流を柔軟に実施できるようにするなど、プログラムを推進している。 ・日本留学海外拠点連携推進事業による大学等への訪問及びミニ留学フェアの開催並びにミャンマー人材育成支援産学官連携ぶらっとフォームにおけるAcademicセミナー等の開催により、日本留学者の増加を図るとともに、人材育成支援を推進している。 ・既存の交流協定締結校との交流実績の評価及び学生のニーズに基づいた新規交流校の戦略的開拓により、学生短期交流プログラムを拡充している。 ・GPが主体となる超短期学生受入プログラム(サマースクール)を企画・実施した。 ・岡山大学ライデン大学日本語日本文化研修プログラムコースの実施及び米国国務省が実施するクリティカル・ランゲージ・スカラシップ(CLS)プログラムのパートナー校への採択などにより、受入プログラムを拡充した。 ・プレマスターコース(大学院予備教育特別コース)について、国際同窓会等を通じて志願者募集を行ったほか、HP掲載情報の充実を図るなどにより、入学者が昨年度から約4割増加した。 ・岡山大学ライデン大学日本語日本文化研修プログラムコース(本年度初回)を円滑に実施し、23名を受け入れた。 ・岡山大学ホームカミングデイ2018に国際同窓会より15支部を招へいし(12支部出席)、招へい期間中に、岡山大学日本留学情報センター(OJEIC)の留学コーディネーターとの意見交換を行うことにより、本学における留学プログラムを理解していただき、各支部において本学受入プログラムの認知度を高めるための協力を依頼するなど、国際同窓会支部及び国際連携所との連携を強化した。 ・国立六大学国際連携機構でのミャンマーにおけるAcademicセミナー開催をはじめとしたASEAN地域での留学増進に係るイベントの開催などにより、アライアンス間の交流を推進した。 <p>【新たに生じた課題への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学各部局の教職員全体がグローバル化する必要性が高まったことから、全学的な国際化に向けたWGを設置し、その提言を踏まえ、組織改革の具体案を作成した。 ・優秀な外国人留学生の受入拡大に向け、米国国務省のCLSプログラムの実施に向けた準備を開始した。 ・派遣留学生の拡大に向け、文部科学省が展開する「トビタテ留学ジャパン」への申請及び採択の増加のため、留学計画作成等に係る相談の受付を行うなどの支援を行った。 ・グローバル人材の育成に向け、各国を代表する次世代の若いリーダー達(18-30歳)が一堂に会するOne Young Worldへ派遣する学生に対する支援を行った。 ・引き続き中国東北3省「日本語スピーチコンテスト」を実施した。
④-2 年度計画との関連	④-2 大学全体への貢献
<p>第3期中期計画(国際担当理事分)およびSGU創成支援事業において、グローバル・パートナーズに関連する項目が達成できるよう、平成30年度の組織目標を設定した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SGU目標値を達成し、中間評価でのA評価の取得に貢献した。 ・留学生関連業務及び留学関連業務の一元化により、各部局の業務支援を行った。 ・プログラム開発経費を配分し、各部局の国際化への支援を行った。

④-3 目標とする(重要視する)客観的指標	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・新入生向け留学ガイダンスの実施状況 ・危機管理セミナーの受講率 ・「派遣留学支援・海外渡航システム」の運用率 ・外国人留学生数、日本人留学生数 ・交流協定締結大学数 ・学生短期交流(派遣・受入れ)プログラム数 ・大学院予備教育特別コース入学者数 ・岡山大学ライデン大学日本語日本文化研修プログラム受入れ学生数 ・国際学生寮・国際シェアハウス・借り上げ宿舍充足率 ・ミャンマー人留学生数 ・国立六大学の連携に基づく協定数、交流学生数等 ・海外事務所体制整備状況・活用状況 ・国際同窓会海外支部数 活用状況 ・グローバル・パートナーズ運営委員会の委員出席率 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生向け留学ガイダンスの実施状況: 4月16日, 4月23日, 5月14日, 5月21日実施(全学ガイダンス『岡山大学入門講座』) ・危機管理セミナーの受講率:100%(GP実施プログラム) ・「派遣留学支援・海外渡航システム」の運用率:100%(GP実施プログラム) ・外国人留学生数、日本人留学生数: 外国人留学生受入:1,416人/目標1,345人(3月5日時点) 学生派遣:442人(内訳:語学280人+EPOK87人+CA58人+私費VSCP他11人+インターンシップ6人)/目標360人(3月13日時点) ・交流協定締結大学数:大学間:162校, 部局間:160校(3月1日時点) ・学生短期交流(派遣・受入れ)プログラム数:受入:5プログラム【受入部門】, 派遣:15プログラム ・大学院予備教育特別コース入学者数:25人 ・岡山大学ライデン大学日本語日本文化研修プログラム受入れ学生数:23人 ・国際学生寮・国際シェアハウス・借り上げ宿舍充足率: 国際シェアハウス:89%, その他国際学生寮:73%, 借り上げ宿舍:89% ・ミャンマー人留学生数:42人 ・国立六大学の連携に基づく協定数、交流学生数等:協定:7件【総務部門】、交流学生数:29人 ・海外事務所体制整備状況・活用状況:8カ所(H30.8ミャンマー・マンダレー事務所新設)・留学生呼び込み及び情報収集等に活用 ・国際同窓会海外支部数 活用状況:55支部・留学生呼び込み及び現地日本人留学生支援への協力を依頼 ・グローバル・パートナーズ運営委員会の委員出席率:86.57%(3月1日時点)

【総括記述欄】

グローバル・パートナーズは、設立時における目的をおおむね達成し、大学全体としてさらに国際化を推進するためには、グローバル・パートナーズの持つ国際連携、学生及び研究者交流に関するノウハウを基に、各部局及び関連事務部門とのさらなる協働が必要である。そのために、30年度末をもってグローバル・パートナーズを発展的に解消し—教育部門(グローバル人材育成院)と事務部門(国際部)に分離—、各部局との連携をさらに強化する方を提案し新たな組織へ移行する。